

# 感染症発生動向調査委員会報告 11月

## 今月のトピックス

インフルエンザ、過去10年間に比べて最も早く流行期に。Aソ連型を検出。

ノロウイルスを含む感染性胃腸炎、増加傾向。集団発生もあり注意。

麻しん、学校閉鎖の報告あり。来年1月から麻しん・風しんは全数報告にして詳細を把握。

### 【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:84 箇所、内科定点:55 箇所、眼科定点:15 箇所、性感染症定点:26 箇所、基幹(病院)定点:3 箇所の計 183 箇所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13 感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計 139 定点から報告されます。

平成19年10月22日から平成19年11月25日まで(平成19年第43週から第47週まで。ただし、性感染症については平成19年10月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 全数報告疾患

平成19年 週 - 月日対照表

#### < 腸管出血性大腸菌感染症 >

秋になって減少しましたが、11月は29日現在で5例と発生は続いており、引き続き注意が必要です。

第43週	10月22～28日
第44週	10月29～11月4日
第45週	11月5～11日
第46週	11月12～18日
第47週	11月19～25日

#### < 細菌性赤痢 >

国内発生例が2件あり、感染源・感染経路について調査しましたが、特定できませんでした。

#### < レジオネラ症 >

11月は2例と、4月以降毎月報告が続いており、現時点での合計が26例と、すでに昨年の3.7倍になっています。全国でも、第47週までの累計は584例と、昨年の報告数を大きく超えています。

レジオネラ症については、平成15年4月より、尿中レジオネラ抗原検査が保険適用になり、診断が迅速に出来るようになりました。しかし、レジオネラ肺炎は、早期に適切な治療(マクロライド系、ニューキノロン系、リファンピシンの投与等)を行わないと、症状が急激に悪化したり、致死的になる場合があります。高齢者や、糖尿病などの基礎疾患がある人は注意が必要です。また、肺炎患者においては、循環式浴槽やジャグジーなどの入浴施設の利用を確認する事も必要と思われます。

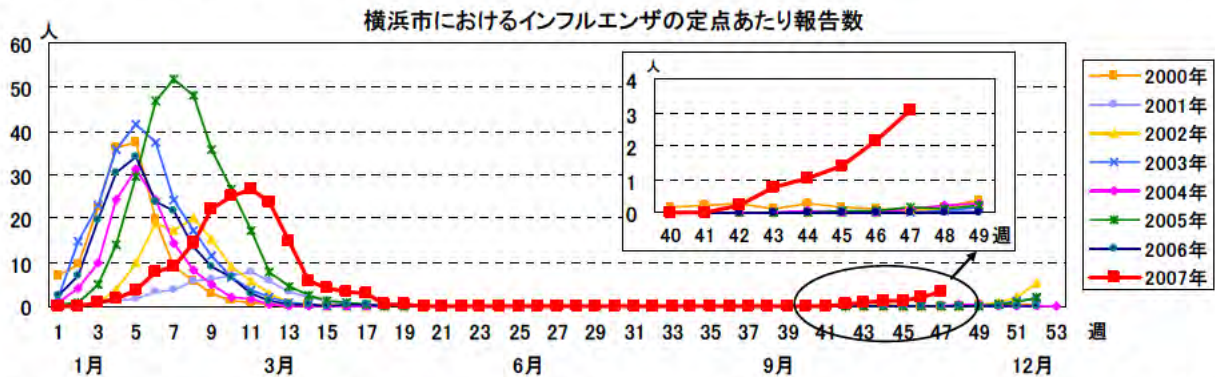
その他の疾患については、横浜市感染症発生動向調査全数情報をご覧ください。

([http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/report.html#zensu](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/report.html#zensu))

## 定点報告疾患

### <インフルエンザ>

横浜市では、第44週に定点あたり1.04と、過去10年間に比べて最も早く流行期に入りました。その後も増加が続き、第47週は定点あたり3.10で、18区のうち14区で流行期に入っています。区別では、瀬谷12.3、青葉8.2、神奈川4.9、港北4.7が目立ちます。



また、横浜市内の病原体定点の検体からは、昨シーズンは流行が見られなかった A ソ連型が検出されており、今後の動向に、注意する必要があります。

最新の情報については、([http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2007nen/sokuhou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2007nen/sokuhou.pdf)) をご覧ください。

### <感染性胃腸炎>

昨年は、10月末頃から増加し、12月に1999年以降最大の流行がありました。昨年のような急激な増加ではありませんが、増加傾向が続いており、第47週は定点あたり7.05でした。全国でも第42週以降増加が続いていますし、川崎市が11.71、神奈川県(横浜、川崎を除く)が8.24と、どちらも横浜より高くなっています。冬の流行期に入ることもあり、今後の動向には注意が必要です。

### <RSウイルス感染症>

例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。昨シーズンは、過去3年間に比べてかなり多く報告されました。今年も、第44週に4人、45週に9人、46週に7人、47週に5人と、報告が続いています。引き続き、動向に注意が必要です。

### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。今年も、第34週に最低値となった後、45週の1.31まで増加傾向が続き、第47週は定点あたり1.13と、昨年に引き続き多く報告されています。川崎市が2.23、神奈川県(横浜、川崎を除く)が1.43と、どちらも横浜より高くなっており、今後の動向に注意が必要です。

### <百日咳>

今年も、第47週までで47人の報告があり、全国的にやや大きな流行のあった2000年の39人、昨年の41人を上回っています。第43週～47週の報告は4人と前回より減少し、年齢は20歳以上が2人、1歳未満が2人でした。成人は、症状が典型的ではないために診断が見逃されやすく、感染源となって周囲へ感染を拡大してしまうこともあります。百日咳は、母体からの移行抗体が有効に働かないために、乳児早期から罹患する可能性があり、特に、生後6か月以下では重症化する危険性があります。早期の予防接種が必要です。(三種混合ワクチンとして、生後3か月から接種できます。)

< 麻しん >

全国の小児科定点からの麻しんの患者報告数は、第 43 週は 14 人まで減少しましたが、その後は 44 週 18 人、45 週に 43 人、46 週に 41 人と、報告が続いています。横浜市では、44 週に 2 人、45 週に 3 人の報告があり、すべて 10 代で、予防接種歴については 1 人が未接種で、残りは不明でした。また、横浜市内の高校で、11 月 8～11 日に学校閉鎖がありました。

麻しんに対しては、油断することなく、次の流行時に適切な対応がとれるように準備しておく事が大切です。

（麻しんの排除に向けて）

2006 年度より、麻しん単独ワクチンの 1 回接種から、麻しん風しん混合ワクチンによる 2 回接種に変更。

2008 年 4 月より 5 年間、中 1 及び高 3 相当の年齢への定期接種を実施。

2008 年 1 月から、風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

(厚生労働省でパブリックコメント募集中: 下記参照)。

(<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=Pcm1010&BID=495070181&OBJCD=100495&GROUP=>)

([http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2007nen/measles-sokuhou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2007nen/measles-sokuhou.pdf))

< 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の 15 定点からの報告に基づいて集計されています。

10 月は、定点あたり報告数が全て 9 月より増加しています。性器クラミジア感染症においては、女性は、報告された 27 人のうち 7 人が 15～19 歳でした。

12 月 1 日は、世界エイズデーです。今年度のテーマは、「Living Together～大切な人を守るために～」で、各地で様々なイベントが実施されます。( <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2007/10/h1029-5.html> )

#### 【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8 か所、インフルエンザ(内科)定点:5 か所、眼科定点:1 か所、基幹(病院)定点:3 か所、の計 17 か所を設定しています。検体採取は、小児科定点 8 か所を 2 グループに分け、4 か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

#### 衛生研究所から

##### < ウイルス検査 >

2007 年 11 月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点 36 件(咽頭ぬぐい液)、基幹定点 13 件(咽頭ぬぐい液 4 件、鼻汁 1 件、髄液 7 件、便 1 件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎 32 人、胃腸炎 2 人、リンパ節腫脹 1 人、発熱のみ 1 人、基幹定点は麻しん・脳炎疑い 1 人、急性散在性脳脊髄炎 1 人、無菌性髄膜炎 2 人、脳炎 3 人でした。

12 月 8 日現在、小児科定点の気道炎患者 14 人からインフルエンザウイルス AH1 型、リンパ節腫脹患者 1 人からアデノウイルスが分離されています。

これ以外に、PCR 検査では、小児科定点の気道炎患者 2 人からインフルエンザウイルス AH1 型の遺伝子が検出され、このうち 1 人からはエコーウイルス 11 型の遺伝子も検出されています。また、気道炎患者 3 人(うち 1 人はインフルエンザ AH1 型分離陽性)と胃腸炎患者 1 人から RS ウイルス遺伝子が検出されました。

基幹定点は、急性散在性脳脊髄炎患者の鼻汁からインフルエンザウイルス、無菌性髄膜炎患者 2 名の髄液からコクサッキーウイルス B5 型が分離されています。また、PCR 検査では、麻しん・脳炎疑い患者の咽頭ぬぐい液から麻しんウイルス遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

##### < 細菌検査 >

11 月の感染性胃腸炎関係の受付は 10 菌株で腸管病原性大腸菌 2 件検出されました。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は 3 件で A 群溶血性レンサ球菌が 1 件検出されました。また、細菌性髄膜炎患者より *Haemophilus influenzae* (b 型) が 1 件分離同定されました。